

ユネスコスクール 支援大学間ネットワーク ASPUnivNet

Interuniversity Network Supporting

 the UNESCO Associated School Project Network



平成22年度 ASPUnivNet 事務局

国立大学法人宮城教育大学

 連携主幹付研究協力室

Tel. 022-214-3856

Fax. 022-214-3342

E-mail: kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp

加盟大学

- 北海道教育大学釧路校
- 岩手大学
- 東北大学大学院環境科学研究科
- 宮城教育大学
- 玉川大学
- 金沢大学
- 三重大学
- 大阪府立大学
- 奈良教育大学
- 鳴門教育大学
- 岡山大学
- 九州大学大学院言語文化研究院



ASPUnivNetに期待すること

文部科学省国際統括官
日本ユネスコ国内委員会事務総長

藤嶋 信夫

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) は、現在我が国が持続発展教育 (ESD) の推進拠点と位置づけているユネスコスクールの活動を質的に支援する高等教育機関の枠組みとして、文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会との連携のもと、2008年より活動いただいております。こうしたユネスコスクールの活動を支援する高等教育機関のネットワークは世界でも例がなく、その活動内容には世界中から関心が集まっています。

2002年の第52回国連総会において、我が国が提唱し、多くの国々の賛同を得て始まった「ESDの10年」(DESD、2005－2014)は、すでに後半年を迎えております。2014年のDESD最終会合を日本で開催することが決定し、国際的にもESDへの日本の取組・貢献はこれまで以上に注目を集めているところです。このような中、我が国では、ESDの普及促進のための有効な手段として、ユネスコの国際的な学校間ネットワークである「ユネスコスクール」を活用することを提言いたしております。我が国のユネスコスクール加盟校は2010年12月現在で237校を数えておりますが、DESDが始まった2005年のユネスコスクール加盟校数が19校であったことを考えますと、ここ数年のユネスコスクールの急激な増加に対応するためのユネスコスクールの質の確保ということは急務になっております。

我が国では、2014年のDESDの最終会合までにユネスコスクール加盟校数を500校と目標設定しておりますが、今後の更なる加盟校数の増加とともに、各々のユネスコスクールのESD活動の充実、ユネスコスクール間のネットワーク強化も積極的に進めていかなければならないと考えております。こうした際に、ASPUnivNetの活動は、大学の持つ知的資源をユネスコスクールの活動に直接還元できるのみではなく、地域の教育機関とユネスコスクールの連携を促進し、地域とのつながりの拠点としての役割を担うことができるという点で非常に意義のあるものと考えております。

現在は日本国内の12の大学がASPUnivNetに加盟し、各地域の拠点としてユネスコスクールの活動を支援していただいておりますが、ユネスコスクールのパートナーとして、ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワークが今後さらに広がり、活動の質の向上と多様性につながることを期待しております。また、ASPUnivNetの活動が世界に誇れる先進事例となることにも期待をよせているところです。

ユネスコスクール 支援大学間ネットワーク ASPUnivNet

Interuniversity Network Supporting
the UNESCO Associated School Project Network

Contents

○ユネスコスクールとは	
○ASPUnivNetとは	
○ASPUnivNet創設の経緯	P.2
○加盟大学	
○ASPUnivNetにできること	P.3
○ASPUnivNet規約	P.4
○平成21年度・22年度 ASPUnivNet開催ワークショップ	P.5
○加盟大学の紹介	P.8
●北海道教育大学釧路校	P.9
●岩手大学	P.10
●東北大学大学院環境科学研究科	P.11
●宮城教育大学	P.12
●玉川大学	P.13
●金沢大学	P.14
●三重大学	P.15
●大阪府立大学	P.16
●奈良教育大学	P.17
●鳴門教育大学	P.18
●岡山大学	P.19
●九州大学大学院言語文化研究院	P.20
○ASPUnivNetの今後に向けて	P.21



ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。世界の180の国・地域で8,500以上のユネスコスクールがあります(2010年6月現在)。

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけ、その加盟校増加に取り組んでいます。

持続発展教育(ESD～Education for Sustainable Development～)とは

ESDは**持続可能な社会の担い手を育む教育**です。ESDの実施には、特に次の2つの観点が必要です。

- ◎**人格の発達**や、自立心、判断力、責任感などの**人間性を育む**こと
- ◎他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「**関わり**」、「**つながり**」を**尊重できる個人を育む**こと

新しい学習指導要領とESD

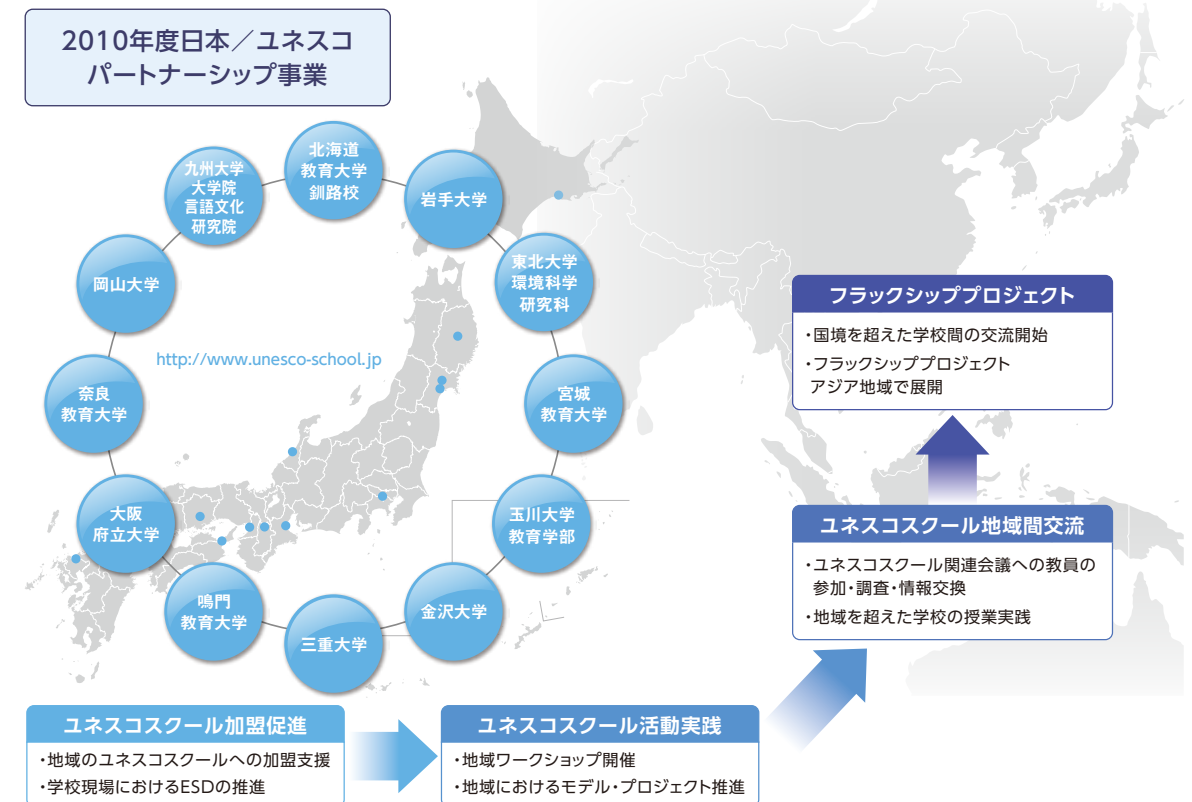
2008年3月、幼稚園教育要領及び小学校・中学校、2009年3月には高校の学習指導要領が公示されました。この新しい学習指導要領には、持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれています。教育基本法とこの新しい学習指導要領に基づいた教育を実施することにより、ESDの考え方に沿った教育を行うことができます。

教育振興基本計画とESD

2008年7月、改正教育基本法に基づき教育振興基本計画が策定されました。同計画では、ESDをわが国の教育の重要な理念の1つとして位置づけ、今後5年間に取り組むべき施策としてESDの推進を明記しています。

加盟大学

ASPUnivNetには、現在、北海道教育大学釧路校、岩手大学、東北大学大学院環境科学研究科、宮城教育大学、玉川大学教育学部、金沢大学、奈良教育大学、三重大学、大阪府立大学、鳴門教育大学、岡山大学、九州大学大学院言語文化研究院の12大学が加盟しています。



ASPUnivNetとは

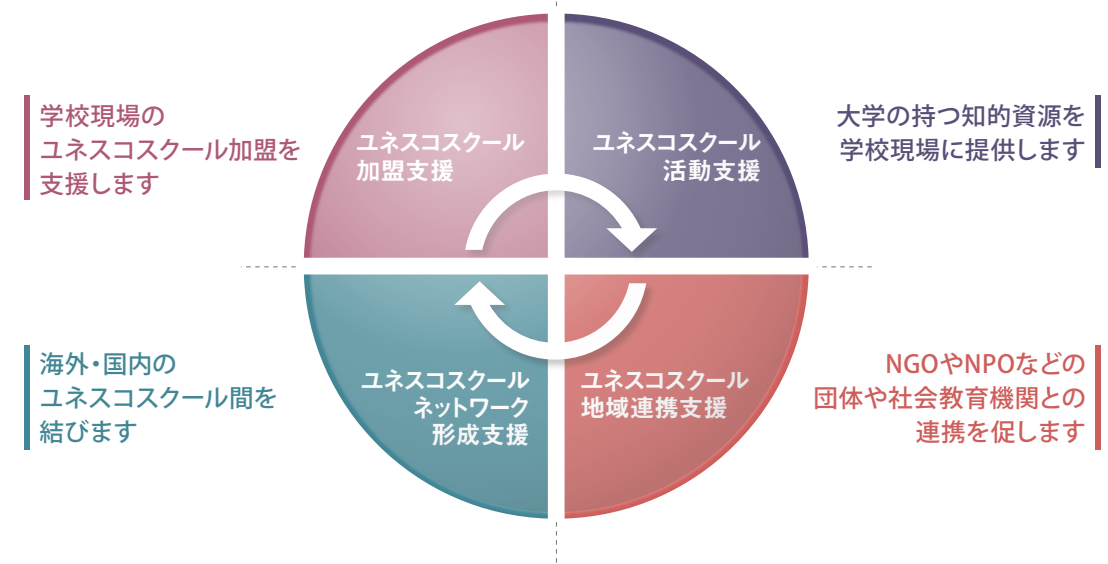
ASPUnivNet(ASPユニブネット)は、ユネスコスクールのパートナーとして、ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワークです。

ASPUnivNet創設の経緯

ユネスコスクールの活動は、1953年にASPnet(Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するために発足して以来、長い歴史があります。世界の民間のユネスコ活動の発祥が仙台であったこともあり、2007年仙台的宮城教育大学で行われた「国際理解教育シンポジウム」を契機に、気仙沼市を中心に地域でのASPnetへの加盟申請が一気に増えました。学校教育への大学の協力に加え、申請を大学が支援したことが、推進力となりました2008年11月には、宮城教育大学にて『ユネスコスクールの集い』が開催され、ユネスコスクールの支援を考える大学の関係者が集まり、大学間ネットワークの設立が提唱されました。同年12月2日～5日『ESD国際フォーラム2008』(主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、国連教育科学文化機関(ユネスコ)、共催：国連大学、財団法人ユネスコ・アジア文化センター、宮城教育大学)が、東京の国連大学で開催され、そこで正式にユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)の発足を内外に示すことになりました。このときの参加8大学が、現在は12大学となっています。

ASPUnivNetにできること

- 1 学校のユネスコスクール加盟(申請や活動)を支援します。
- 2 大学の持つ知的資源をユネスコスクールの活動に提供します。
- 3 国内外のユネスコスクールとのネットワーク作りを支援します。
- 4 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。





ユネスコスクール支援大学間ネットワーク規約

（名 称）

第1条 本会は、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（以下「大学間ネットワーク」という。）と称する。略称はASPUnivNetとする。

（目 的）

第2条 大学間ネットワークは、ユネスコスクールとして認定を受けた学校及びユネスコスクールに加盟しようとする学校（以下「ユネスコスクール等」という。）のユネスコスクール・ネットワーク（ASPnet）を活用したESD実践活動を、それぞれの大学の責任の下に可能な範囲で支援しようとするものであり、大学間ネットワークに加盟する大学等（以下「加盟大学等」という。）が、学校支援のために情報の交換を行いESDの質の向上を図ることを目的とする。

（加盟資格）

第3条 大学間ネットワークへの加盟資格は、大学間ネットワークの目的を理解し、大学間ネットワーク事業に参画するとともにユネスコスクール等からの要請に基づく可能な範囲の支援活動を行う大学等高等教育機関（学部又は大学院研究科単位等も含む。以下「加盟大学等」という。）とする。

（事務局等）

第4条 大学間ネットワークの運営を円滑かつ適正に行うため、事務局を置く。
2 事務局は、加盟大学等が持ちまわりで担当するものとし、任期は2年とする。

（代表等）

第5条 大学間ネットワークに代表（以下「代表」という。）を置き、事務局を担当する加盟大学等の組織の長、あるいは組織の長の指名する者をもって充てる。
2 大学間ネットワークに副代表を置くことができる。
3 代表は、大学間ネットワークを代表し、会務を統轄する。ただし、代表がやむをえない事情により会務を統括できない場合、副代表又は代表があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

（活動内容）

第6条 大学間ネットワークは、第2条の目的を達成するために次の活動を行う。
(1) ユネスコスクール等及び加盟大学等が集い、情報交換ができる場の提供
(2) 加盟大学等間又はユネスコスクール等間の連携協力推進に関する活動
(3) その他、ユネスコスクールのESDを中心とする活動を支援するために必要な活動

（大学間ネットワーク会議）

第7条 大学間ネットワークは、年1回定期ネットワーク会議を開催するほか、次の各号に該当するときにネットワーク会議を開くこととし、代表が招集する。
(1) 代表が必要と認めたとき
(2) 加盟大学等の3機関以上から、会議に付議すべき事項を示して招集の要求があったとき

（入 会）

第8条 大学間ネットワークに加盟しようとする大学等高等教育機関は、担当者を定め、別記様式1により事務局に申請するものとする。
2 事務局は、前項の申請があった場合は、大学間ネットワーク会議に諮るものとする。

（退 会）

第9条 加盟大学等は、任意に退会することができる。
2 退会しようとする場合は、別記様式2により事務局に申し出るものとする。

（協力員）

第10条 大学間ネットワークに、大学間ネットワークの目的を理解し、大学間ネットワーク事業をサポートする協力員を置くことができる。
2 協力員候補者は、別記様式3により事務局に申請するものとする。
3 事務局は、前項の申請があった場合は、大学間ネットワーク会議に諮るものとする。

（運営費等）

第11条 大学間ネットワークへの加盟に際し、会費、運営費等の負担は求めないこととする。
2 事務局の運営費については、事務局を担当する加盟大学等が負担する。
3 大学間ネットワークとして行う事業において、経費の負担が生ずる場合は、その都度協議する。

（規約の変更）

第12条 この規約を変更しようとするときは、大学間ネットワーク会議において出席者の3分の2以上による議決を要する。

（解 散）

第13条 大学間ネットワークは、大学間ネットワーク会議において出席者の3分の2以上による議決により解散する。

（協 議）

第14条 この規約に定めのない事項は、大学間ネットワーク会議において協議するものとする。

附 則

1 この規約は、平成21年9月5日から施行する。
2 大学間ネットワークの設立当初の事務局は、設立会議総会の議決によるものとし、その任期は、第4条第2項の定めにかかわらず、平成23年3月31日までとする。

【平成21年度ASPUnivNet開催ワークショップ】

日本/ユネスコ パートナーシップ事業 ダブルネットワークワークショップ開催

平成21年12月26日から28日までの3日間、東京お台場の東京国際交流館において、全国のユネスコスクール（ASPnet）とその支援を目指す「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク」11校（ASPUnivNet:加盟校は北教大釧路校ESDセンター、岩手大、東北大大学院環境科学研究科、宮教大、玉川大教育学部、金沢大、三重大、奈良教大、大阪府大、岡山大及び九大大学院言語文化研究院）によるワークショップが開催されました。この事業は平成21年度文部科学省「日本/ユネスコ パートナーシップ事業」によるもので、以下の目的のために企画しました。

- ① ユネスコスクールへの全国各地域における加盟促進と実践の質向上
- ② 支援大学とユネスコスクール、全国のESD実践者との交流促進
- ③ 国際的な学校間連携を促進させる「フラッグシップ・プロジェクト」の展開

初日26日は、ASPUnivNet今年度代表の宮城教育大学高橋学長の式辞、スウェーデン教育庁、ユネスコ・バンコクオフィスからの基調講演を皮切りにASP及びASPUnivNetからそれぞれの優良実践事例の講演、さらに「地域」「食」「文化」「エネルギー」「国際理解」の五つの分科会ごとに、それぞれのモデルカリキュラム構築作業を延べ2日間、夜半まで取り組みました。最終日には各分科会の発表を軸に情報共有作業が行われ活発な意見交換と質疑応答など盛況のうちに閉会しました。
今後、国内の学校がASPUnivNetと協働し、ネットワークの拡大と、海外のユネスコスクールとの交流が活発になることが期待されます。





【平成22年度ASPUnivNet開催ワークショップ】

第2回 ユネスコスクール全国大会関連事業を開催

10月30日(土)に、文部科学省・日本ユネスコ国内委員会主催の標記全国大会が宮城教育大学において開催されました。また、全国大会開催に伴い、ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)主催のサイドイベント(29日・金)、ダブルネット推進ワークショップ(31日・日)を開催しました。

10月29日(金) サイドイベント・公開授業「防災教育」

文部科学省藤嶋信夫国際統括官をお迎えし、宮城教育大学附属小学校にて開催しました。13:00からの開会式に続き、附属小学校5年生「総合的な学習の時間」参観後、「防災教育パネルディスカッション」を行いました。パネルディスカッションでは、附属小学校いずみタイム研究部会・高橋心教諭、気仙沼市立小原小学校尾形俊明教諭、気仙沼市立階上中学校・菊田裕幸教諭、大河原町立金ヶ瀬中学校・高橋教義校長が取り組みを発表し、国立教育政策研究所五島統括研究官からコメントを頂き、熱心な質疑応答が行われました。



附属小学校「総合的な学習の時間」



附属小学校「防災教育パネルディスカッション」

10月30日(土) 第2回ユネスコスクール全国大会

銭谷眞美東京国立博物館長をお迎えし、「ESDで育てる“生きる力”」の基調講演が行われた後、午後は、ユネスコスクールの教職員による課題別研究協議会「ユネスコスクールとしての実践を深めるために」がありました。

この協議会では、

① ESDの浸透 ② 構内連携 ③ 教科とのリンク ④ 活動の継続性 ⑤ 環境整備 ⑥ 地域連携 ⑦ 学校間交流

に分かれ討議を行いました。引き続いてパネルディスカッション「ESDで育てる“生きる力”」では、国立教育政策研究所・角屋重樹先生、金沢市教育委員会・上林雅彦部長、気仙沼市立大谷小学校・藤村俊美校長、広島県立広島中学・高校・藤本秀穂教頭により、実践発表と研究発表およびESDで養われる資質・能力を巡っての討論が行われました。

本大会には、全国から330人のユネスコスクールの教職員と関係者が参加しました。



銭谷眞美東京国立博物館長



パネルディスカッション

10月31日(日) ダブルネット推進ワークショップ

ユネスコスクール大学間支援ネットワーク(ASPUnivNet)とユネスコスクールネットワーク(ASPNet)によるダブルネット推進ワークショップを開催しました。

国内ユネスコスクール加盟校が東アジア・東南アジア地域のユネスコスクールと交流するため、今回は「お米プロジェクト」を共通のテーマとし、「お米作りと生物多様性」・「お米作りと体験学習」・「お米作りと食文化・食育」・「お米作りと伝統芸能」の4つの分科会に分かれ、参加校の実践発表に続き、各会場では活発な質疑応答が行われました。

午後の部は、国連大学よりESDの地域拠点に認定されている、仙台広域圏ESD・RCE(本学が事務局を担当)学びあいセミナーと位置づけ、一般公開としました。

基調講演では、仙台広域圏のメンバーでもある「オリザの環」を連載企画した、河北新報社代表取締役・一力雅彦社長の「お米が結び 地域と世界」の講演に、会場から時間をオーバーしての質問がありました。

また、タイ・韓国・マダガスカルより海外のESD活動やユネスコスクールの現状報告と、10月29日開催のサイドイベント「宮城教育大学附属小学校・防災教育」と各分科会からの報告がありました。

今後、ユネスコスクールに参加することでESDが広まり、今回のワークショップを通して各校で取り組まれている実践事例を共有し、ユネスコスクール加盟校の質の向上につながることを期待します。



「お米作りと生物多様性」分科会



記念講演「お米が結び 地域と世界」

ユネスコスクール 支援大学間ネットワーク

ASPUnivNet Interuniversity Network Supporting
the UNESCO Associated School Project Network

Introduction

加盟大学の紹介

- 北海道教育大学釧路校
- 岩手大学
- 東北大学大学院環境科学研究科
- 宮城教育大学
- 玉川大学
- 金沢大学
- 三重大学
- 大阪府立大学
- 奈良教育大学
- 鳴門教育大学
- 岡山大学
- 九州大学大学院言語文化研究院

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク

ASPUnivNet Interuniversity Network Supporting
the UNESCO Associated School Project Network



北海道教育大学釧路校

住 所 北海道釧路市城山1-15-55
URL http://www.kus.hokkyodai.ac.jp/

担当者情報 神田 房行 kanda@kus.hokkyodai.ac.jp
川崎 悠一 kawasaki@kus.hokkyodai.ac.jp

持続可能な社会実現への地域融合キャンパス

【ESD活動紹介】

北海道教育大学釧路校では、平成19年度から平成21年度まで、現代GPプロジェクト「持続可能な社会実現への地域融合キャンパス」が採択されたことに伴い、平成20年10月にESD推進センターを発足させました。このセンターは、

- ①ESD（持続可能な開発のための教育）についての調査・研究
 - ②持続可能な社会実現を目指す教員や地域活動人材の育成支援
 - ③地域と連携したESD活動の推進
- を目的としています。

また、北海道教育大学釧路校地域教育開発専攻は、地域融合キャンパスをベースにした教科融合型の実践的カリキュラムを通して、地域の課題に取り組み、地域と連携することができる人材の育成を実現することを目指しています。

本専攻は、「地域教育」と「環境教育」のふたつをキーワードにして、フィールドワークを中心とした体験学習に力を入れています。

釧路湿原や阿寒、知床などの雄大な自然に恵まれた東北海道地域をフィールドに、自然と共生する持続可能な地域社会（サステナブル・コミュニティ）を実現するための地域のファシリテーターを養成し、「ESDプランナー」として認証します。



【ユネスコスクール支援内容】

◎平成21年度

11月21日「ユネスコ・スクール・フォーラム in 釧路」



釧路市生涯学習センター（まなぼっと）におきまして、北海道教育大学釧路校ESD推進センター主催により開催しました。文部科学省担当者による講演「持続発展教育（ESD）とユネスコ・スクールの活用について」のあと、釧路での国際理解教育についての報告がなされたほか、全国の先進的なESDおよびユネスコスクールでの実践の取り組みが紹介されました。釧路市内外の学校教員のみなさまのほか、大学関係者、一般市民の方々にご参加いただきました。

平成21年度は、日本ユネスコ協会や地域の教育委員会のご協力を得つつ、北海道内のユネスコスクールとのネットワークづくりに取り組みました。

◎平成22年度

11月20日「ユネスコスクール研修会 in 釧路2010」

釧路市生涯学習センター（まなぼっと）におきまして、北海道教育大学釧路校ESD推進センター主催により開催しました。ユネスコスクールの概要と、ユネスコスクールに関連するさまざまなプロジェクトについて御報告いただいたあと、北海道でのESDおよびユネスコスクールでの実践の取り組みが紹介されました。

釧路管内の学校教員のみなさまを中心に、一般市民の方々や学生の方々にご参加いただきました。平成22年度は、北海道内でユネスコスクール加盟を希望する学校の教員の方々と連絡を取り合いながら、多くの学校が加盟申請を実現できるように、さまざまな形でのアドバイスやサポートを実施しました。



岩手大学

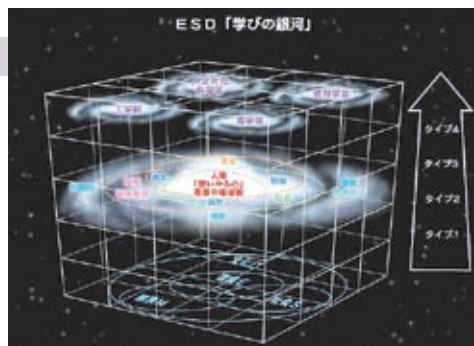
住 所	〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-8	担当者情報	玉 真之介(理事・副学長) 南 正昭 教授 中島 清隆(プロジェクト教員) E-MAIL manabi-shien@iwate-u.ac.jp
URL	http://www.iwate-u.ac.jp/		

「学びの銀河」、ESD科目のラベリング、 岩手県幼小中高大専ESD円卓会議、 テレビ・ゲーム・パソコンを消して読書する共同行動、 岩手県教育サミット、ユネスコスクール研究会

【ESD活動紹介】

1. 全学共通教育でESD科目のラベリングを実施

岩手大学は、2006年4月から2009年3月まで、文部科学省現代GP「学びの銀河」プロジェクトを実施しました。プロジェクトでは、全学共通教育を4つのタイプと4つの領域に分けてラベリングしました。領域は「E 環境」「S 社会」「M 経済」「C 文化」の4領域、タイプは「1 関心の喚起」「2 理解の広がり」と深化」「3 学生参加型」「4 問題解決の体験」の4タイプに区分されます。この4×4=16のマトリックスを参考に、学生自身がESDを自分の中に位置づけて学習することが期待されています。



2. 岩手県幼小中高大専ESD円卓会議の活動



岩手県幼小中高大専ESD円卓会議は、校種・公私立をこえた連携・協力のプラットフォームとして、岩手県教育諸機関によって、2008年7月に設立されました。これまでに2009年・2010年と2度の「テレビ・ゲーム・パソコンを消して読書する共同行動」を実施しました。地球温暖化防止の啓発と教育の連携を目指し、岩手県の幼稚園から小学校・中学校・高等学校・大学・専門学校が、全県的に「環境ウィーク」(2009年・2010年5月30日～6月5日)を設定し、テレビ・ゲーム・パソコンを消して読書する活動を行いました。

また、岩手県教育サミット(第4回岩手県幼小中高大専ESD円卓会議)を開催し、新しい教育要領・学習指導要領を踏まえ、校種間の教育接続として、幼・小・中の教育接続をテーマに講演やパネル・ディスカッションを行いました。

【ユネスコスクール支援内容】

1. ユネスコスクール研究会の開催

ユネスコスクールに加盟している、あるいは、関心がある岩手県内の教育機関関係者にご参加いただき、2010年7月に「ユネスコスクール研究会」を開催しました。当研究会を通して、岩手県幼小中高大専ESD円卓会議で見られる岩手県教育機関における連携が、ユネスコスクールに関する教育現場の関係者にも広がっています。今後も、研究会を開催していきます。

2. ユネスコスクール普及活動

特に、岩手県内の郡部の小規模校へのユネスコスクールの普及を進めています。岩手県葛巻町は、教育機関だけでなく、町役場やNPOなど町全体でエネルギー教育・環境教育を中心としたESD活動を行っています。岩手大学からは、葛巻小学校などの教育機関や葛巻町の関係者に対して、ユネスコスクール申請への働きかけや説明を行っています。

東北大学【大学院環境科学研究科】

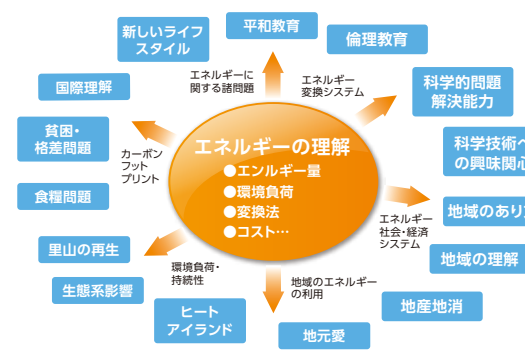
住 所	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-20	担当者情報	准教授 浅沼 宏 E-MAIL asanuma@ni2.kankyo.tohoku.ac.jp TEL&FAX 022-795-7399
URL	www.kankyo.tohoku.ac.jp		

エネルギー・環境関連ESD活動の支援

【ESD活動紹介】

東北大学・大学院環境科学研究科は2003年に設立された研究科で、「持続可能な発展をささえる文化と循環社会の基盤となる社会構造を確立し、21世紀の地球的課題に取り組む高度な知識と能力を有する人材の育成」を理念に教育・研究活動を行っています。本研究科では、学部学生、大学院学生、社会人学生、そしてアジアを中心とする海外の学生に対して広く環境教育、人材育成を行っています。

本研究科では、「エネルギー・環境」に関連して対外的なESD活動を実施しています。これは単にエネルギーの変換法、保存法を学ぶのではなくエネルギーに関係した様々な問題とリンクし、これからの社会、技術、暮らし方のあるべき姿について考えることを目的としています。エネルギー・環境に関する課題とESDにおける他の課題をリンクさせることにより、より深化した教育が行えるものと考えています。



ESDにおけるエネルギー・環境教育の位置付け

【ユネスコスクール支援内容】

東北大学・大学院環境科学研究科では以下の項目に関してユネスコスクールの支援を行っています。

1. エネルギー・環境分野の情報提供

出前授業や教員の方との交流を通じて、エネルギー量、環境負荷、コスト、将来のエネルギー予測等本分野に関する最新の情報を提供しています。また、東北大学での体験授業や研究室訪問なども行っています。

2. 教材の作成

エネルギー環境家計簿、太陽光利用体験システム、各種発電装置、クイズ、プレゼンテーションファイルなどを開発し、幅広い学年の児童・生徒さんが様々な機会を通じて学習できる体制を整えています。教材の貸し出しにも対応しています。

【2010年の支援内容】

※出前授業(4回)、大学での公開授業(6回)

※カリキュラム作成支援(4校)

■ みんなの家のエネルギー環境家計簿		
		(オ)は1年間に(二酸化炭素)の量(小学校のプール)の体積(水の量)を1とします。
自動車	(1) 台	台数 × 5 = (5) ←(ア)
エアコン	(1) 台	台数 × 3 = (3) ←(イ)
テレビ	(2) 台	台数 × 1 = (2) ←(ウ)
冷蔵庫	(1) 台	台数 × 1 = (1) ←(エ)
合 計		(ア)+(イ)+(ウ)+(エ) = (11) ←(オ)
(オ)×50=(550) これは(二酸化炭素)を、きゅうしゅうするのに、ひつような(木)の数。		

エネルギー環境家計簿



ソーラークッカー



小型水力発電装置

〈エネルギー・環境教育のための各種教材〉



宮城教育大学

住 所 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地
URL <http://kokusai.miyakyo-u.ac.jp/kokusai.html>

担当者情報 国際理解教育研究センター教授 市瀬 智紀
E-MAIL ichinose@staff.miyakyo-u.ac.jp

東北地方の豊かなリソースを生かして

—— 国際理解、環境教育、特別支援、食教育などを推進

【ESD活動紹介】

持続発展教育カリキュラム

現代社会が抱える多くの課題を解決する能力（地球的視野に立つて行動できること、変化の時代を生き抜いていけること、教員として必然的に求められる資質を持っていることなど）を育成するために、持続発展教育カリキュラム-現代的課題科目群（副専門）を設けています。

ユネスコスクールとASPUnivNet

2007年に宮城県内で初めて本学附属小学校がユネスコスクールに認定され、2008年には大学として国内2番目に本学が認定されました。その後、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）の設立を提案し、現在、事務局を担当しています。本年10月には第2回ユネスコスクール全国大会が、本学において開催されました。

仙台広域圏ESDプロジェクト

ESDを進めるための国連大学の地域の拠点（RCE）に、世界で最初に認定された仙台広域圏ESDプロジェクトの事務局を担当、4地域（仙台地域・大崎田尻地域・気仙沼地域・白石七ヶ宿地域）2大学（本学・東北大学大学院環境科学研究科）が連携し、宮城県内のESDの共通意識を発展させる役割を担っています。

ProSPER.Netに加盟

ProSPER.Netとは、国連大学高等研究所が、持続可能な開発のための教育（ESD）を推進する施策として、アジア地域に高等研究機関の連携・協力を行う目的で設置したアカデミックネットワークで、本学は、2008年6月に正式なメンバーとなっています。



国連大学RCE認定証

【ユネスコスクール支援内容】

ASPUnivNet事務局として①



ユネスコスクールネットワーク（ASPnet）&ASPUnivNetダブルネット推進ネットワークを開催しています。昨年の12月には、東京お台場でユネスコスクールと支援大学の学びあいのワークショップを開催しました。また、国内ユネスコスクール加盟校が東アジア・東南アジア地域のユネスコスクールと交流することを目的として、今年度は10月に「お米プロジェクト」を始動しました。河北新報社・一力社長の「お米が結び 地域と世界」基調講演（一般公開）を開催したほか、「お米作りと生物多様性」「お米作りと体験学習」「お米作りと食文化・食育」「お米作りと伝統芸能」の4分科会で情報交流しました。

ASPUnivNet事務局として②

ASPUnivNet加盟大学およびACCU（財団法人ユネスコ・アジア文化センター）と連携を取りながら、宮城県内、東北地方、そして全国のユネスコスクール加盟を検討している学校へ向けて、指導助言を行っています。

ユネスコスクール活動支援

- ①学校・教育委員会開催の研修会で、ESDの理念やユネスコスクールの紹介を行うとともに、スクールへの加盟を希望される学校には、申請の方法や申請書の書き方などについて助言を行っています。
- ②ユネスコスクールに加盟した学校に対しては、「ユネスコスクール研修会」を、東北大学大学院環境科学研究科と協力して開催しています。昨年度は白石市、気仙沼市および大学において開催。本年度は気仙沼市で2回開催予定です。
- ③その他にも大学学内にあるリソースを活用、また、地域教育委員会、仙台広域圏ESDプロジェクト参加団体、JICAや地域の国際交流協会、NPOなどとも連携しながら、国際理解教育や環境教育などの分野で、ESDの推進とユネスコスクールの支援を行っています。例：（環境教育）「動物園を活用したマダガスカルESDパイロットマテリアルの構築」（国際理解教育）「オーストラリア小学校英語・国際理解教育教員研修」（地域遺産教育）「宮城教育大学舞踊発表会—地域の伝統と教育」など。



玉川大学【教育学部】

住 所 〒194-8610
東京都町田市玉川学園6-1-1

担当者情報 渡辺一雄（教育博物館長、教育学部教授） k-watana@edu.tamagawa.ac.jp
小林 亮（教育学部教授） makoto@edu.tamagawa.ac.jp

URL <http://www.tamagawa.jp>

国際的ネットワークをめざし地域の実態に即した創意・工夫あるESDの推進

【ESD活動紹介&ユネスコスクール支援内容】

1. ユネスコスクール（ASP）およびASPUnivNetへの加盟の経緯

玉川大学教育学部は、「国際理解に向けた教員養成を行っている高等教育機関」として、文部科学省の日本ユネスコ国内委員会の推薦を受け、2008年10月24日にユネスコスクール（ASP: UNESCO Associated Schools Project）に加盟しました。大正新教育運動の旗手であった小原國芳の創設による全人教育の理念に基づいた教員養成校としての伝統を生かし、多摩市、稲城市、横浜市、川崎市、相模原市、町田市など近隣地区の公立小中学校および教育委員会、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）、日本ユネスコ協会連盟、まちだ・さがみユネスコ協会、ESD-JをはじめとするNPO等と連携しながら、ユネスコスクールの重点プログラムであるESD（持続発展教育）の推進に向けた地域ネットワークの構築を進めています。また玉川大学教育学部は、小中学校でのユネスコスクール活動、とくにESD（「持続発展教育」）活動を支援するため、2008年11月より「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク」（ASPUnivNet）に加盟し、大学間連携を推進しています。



2. 日本ユネスコパートナーシップ事業（文部科学省委託事業）

本学はASPUnivNet加盟校として、2009年度より文部科学省「日本ユネスコパートナーシップ事業」の委託を受け、2009年12月19日に玉川大学で地域フォーラム「ESDセミナー in Tamagawa University」を開催し、地域連携を深めました。このESDセミナーには、学内外より80余名の参加がありました。近隣地区の学校関係者、ユネスコスクール関係者、および玉川学園の環境教育、国際教育関係者が集い、ESDの基礎的理解と課題、学校間の連携活動のあり方、大学の役割について研究協議と情報交換を行いました。2010年8月9日には、玉川学園の同窓生をふくむ全人教育の集いである「玉川教育フォーラム」において、ユネスコスクールの取組みに焦点づけた「ESD分科会」を開催しました。また2009年と同じく、文部科学省の委託事業「日本ユネスコパートナーシップ事業」の一環として、日本ユネスコ国内委員会の支援のもと、2010年12月18日、玉川大学にて「ESD推進フォーラム」を開催し、多数の参加者と議論を深めました。

3. ASP地域ネットワークにおける学校支援

ユネスコスクール加盟申請に向けた関係小中等学校への支援としては、静岡県伊豆市立天城中学校、川崎市立枳形中学校、町田市立小山田小学校、多摩市立連光寺小学校、横浜市立永田台小学校のESD活動推進に向けた教育活動、教材開発面での助言および研究授業での支援を行いました。また、遠隔交流学習の推進のため、玉川大学学術研究所で技術開発を進めているV-CUBEシステムを活用し、東京都の多摩市立南鶴牧小学校、鹿児島県の神村学園初等部、北海道の岩見沢市立第二小学校との遠隔授業実践を進めています。

4. 2011年度以降の活動展望

2011年度以降も、町田多摩地区の小中学校を中心とするユネスコスクールの開拓をはじめ、近隣地区間のESDネットワークを発展、拡充してゆく計画です。その中で、とくに初等教育におけるESDに焦点づけたカリキュラム開発、および教師教育用の教材開発を行うべく予定です。具体的には、ピオトープとしての玉川学園キャンパスおよび町田市小山田地区の里山をテーマにした自然環境と人間社会との共生をめざすESD教材の作成を推進中です。また国際ネットワークの構築のために、とくに2011年度以降、APEID（「アジア太平洋地域教育開発計画」）およびAPNIEVE（「アジア太平洋地域国際教育・価値教育ネットワーク」）といったユネスコのネットワークを活用し、アジア太平洋地域諸国におけるユネスコスクールとの交流や協力を強化してゆきたいと考えています。

5. 玉川大学ユネスコクラブの活動

ユネスコスクールの取組みの一環として主に教員志望の学生によって構成される課外活動である玉川大学ユネスコクラブでは、多文化共生の社会構築をめざし、神奈川国際学生会館およびドイツ学術交流会（DAAD）との連携のもとに、外国人留学生との交流・協同活動を展開しています。「さがまち学生環境シンポジウム」（相模原町田大学地域コンソーシアム）への発表参加など、桜美林大学、麻布大学、相模女子大学など近隣諸大学とのESD活動における交流と連携を進めています。また海外のユネスコスクールとの連携を推進するため、2010年2月9日～19日にギリシャにスタディツアーを行い、ギリシャ・ユネスコ国内委員会、パンテイオン大学（ユネスコ・チェア）、ギリシャ・アメリカ学院、イラクリオ第四高校（ユネスコスクール）、ギリシャ日本協会等を訪問して、ギリシャにおけるユネスコ関連活動の現状を視察しました。本スタディツアーの成果については、日英2ヶ国語の報告書を作成しました。2010年8月には世界遺産である日光にスタディツアーを行い、日光ユネスコ協会との交流会を開きました。交流会では、神仏習合という日本の宗教伝統から、グローバル社会における多文化共生に向けての宗教間対話のためにどのような示唆が得られるかについて議論を深め、日英2ヶ国語の報告書を作成しました。

6. ユネスコ本部との連携

ユネスコスクールおよびその中核プログラムとしてのESDは、国連の専門機関であるユネスコが中心となって展開されているプロジェクトであるため、玉川大学教育学部はユネスコ本部の主催する活動への参加やユネスコ本部との連携も非常に重視しています。具体的には、2009年3月31日～4月2日にボンで開催されたユネスコESD世界会議（UNESCO World Conference on ESD）に参加し、海外のユネスコスクールや関連諸機関との交流を深め、また各国でのESDを中心とした教育実践に関する情報を収集しました。同じく2009年7月5日～8日にパリのユネスコ本部で開催された高等教育世界会議2009（World Conference on Higher Education 2009）にも参加しました。この会議では国際協力におけるユネスコ・チェアの取組みや大学間連携について情報を得ると同時に、ESD推進にむけての高等教育の役割と課題について、各国の関係者と議論を行い、他国の諸大学および高等教育政策担当者との交流を深めました。さらに、2010年10月21日～23日にユネスコ・バンコク事務所によって開催された第14回APEID国際会議（the 14th UNESCO-APEID International Conference）に参加し、とくに人材開発に焦点を当てたアジア太平洋地域におけるユネスコスクールを中心とするESDの取組みについて情報を収集すると同時に、今後のアジア太平洋地域におけるユネスコスクールとのネットワーク構築に向けた交流を行いました。



金沢大学

住 所 〒920-1192 石川県金沢市角間町
URL <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

担当者情報 環境保全センター教授 鈴木 克徳
TEL・FAX 076-234-6899
E-MAIL suzukik@staff.kanazawa-u.ac.jp

北陸におけるESD推進・知の拠点づくり 学内のESDプログラム、ユネスコスクール支援

【ESD活動紹介】

金沢大学では、平成20年度からESD入門コース「地球環境と持続可能な社会づくり」を開始し、また、ESD関連科目を強化する等、大学における環境教育・ESDの体系化・可視化に積極的に努めています。

第2期中期計画において、金沢大学におけるESD関連科目の強化、ユネスコスクールへの支援充実を掲げ、環境・ESDに関する現場研修や里山・里海関連の科目の充実を図ったほか、平成23年度からは「環境・ESDリテラシー」に関する特別プログラムを開設し、修了者には学長による認定証を授与することとしています。また、ESD研究・教育に関する現場実習を重視し、金沢大学が位置する角間の里山を用いた実習、過疎高齢化等による地域社会崩壊の危機にさらされている能登半島を活用した実習などを強化しつつあります。

環境・ESDに関する国際化も進めつつあり、環境・ESD分野でも若手研究者交流支援事業等を通じた海外からの学生、研究者の育成に努めてきましたが、さらに平成23年度からは、日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業として「環境・エコ技術特別コース」を創設するとともに、英語のみで修了可能な、大学院博士前期課程「環境・ESD英語コース」を試行的に開始することとしています。

また、石川県に20存在する高等教育機関のESDに関する連携を強化するため、環境・ESDに関する共通教材づくりを進めており、ICTを活用した授業の共有にも努めています。

北陸におけるESD関係者の情報・経験の交流、ネットワーク化にも努めており、動物園、博物館等の学術機関、公民館や図書館を含む自治体、環境・ESD関連NGO、北陸経済連合会や商工会議所等を含む地元企業との交流のプラットフォームづくりを推進しています。

【ユネスコスクール支援内容】

概要

平成20年度には、地球環境基金事業「学校教師を中心とした北陸地域のESDの普及推進」により、北陸における①学校教師を中心とするESD講座（5回）、広く市民にESDを周知するためのESDシンポジウム（1回）、学校におけるESDモデル事業（7校）を実施しました。また、それらの企画推進のため、北陸3県のESD関係者によるESD推進連絡協議会を開催しました。平成21年度からは、地球環境基金事業「マルチステークホルダーによる北陸地域のESDの普及推進」により、ESD講座、ESDシンポジウム、ESDモデル事業等を、北陸3県それぞれにおいて実施するようになるとともに、公民館等の社会教育分野での活動と連携し、より広く市民全体に対してESDの周知普及を図っています。また、平成21年度から、文部科学省による日本ユネスコ・パートナーシップ事業を受託し、平成21年度には「北陸におけるユネスコスクール事例集」の作成、その成果の発表・周知のためのワークショップ開催等を行いました。

平成22年度活動内容

1 北陸地域におけるESDの推進、ユネスコスクールへの加盟、交流支援

- ◎主として学校教師を対象とするESD講座の開催
- ◎教育委員会によるESD研修会、ユネスコスクール研修会等の支援
- ◎学校教師によるESD研究組織の活動支援
- ◎日本ユネスコ協会連盟等によるユネスコスクール研修事業への協力
- ◎潜在的ユネスコスクールの加盟促進に向けた申請書への助言

2 市民への普及のための北陸地域でのESDシンポジウム開催

3 北陸地域におけるモデルプロジェクトの推進と実践事例のとりまとめ

4 地域を越えた学校間交流とネットワークづくり

- ◎北陸地域と東海地域のユネスコスクールの経験交流会開催
- ◎先進地域（大阪）の高校のユネスコスクール活動の視察・意見交換

5 大学の教育課程、教員養成課程におけるESDカリキュラムの強化

- ◎金沢大学における教員養成課程へのESD統合研究
- ◎石川県内の大学の共通ESD教材の作成・研修

6 ユネスコスクール推進に向けた大学間連携強化

- ◎北陸におけるESD大学間連携推進会議
- ◎中部地方におけるESD大学間連携推進会議

7 その他個別の学校に出向いての研修・講演等



ESDセミナー in 金沢の開催挨拶



富山市立中央小学校の事例発表



北陸におけるユネスコスクール事例集

三重大学

住 所 〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
URL <http://www.mie-u.ac.jp/>

担当者情報 理事・副学長 松岡 守
TEL.059-231-9972
E-MAIL matsuoka@mie-u.ac.jp

環境先進大学、環境ISO学生委員会、大学の社会的責任、 キャリア教育、基礎教育の充実、世界遺産・熊野古道、ユネスコクラブ

【ESD活動紹介】

三重大学は総合大学の全学的な取り組みとして、平成21年8月にユネスコスクールへの登録を受けて活動を推進しています。つまり、ASPUnivNetのメンバーとして活動すると同時に、大学自身も総合大学の特性を活かして様々なESD活動をあげ、深めています。

三重大学の主なESD活動は①環境教育、②キャリア教育、③教師及び教師を目指す学生向けの教育、④世界遺産教育があります。

環境教育については、平成19年に国立総合大学では初となるISO14001の全学部一括認証取得をし、環境ISO学生委員会を中心とした3R活動・「三重ブランドの環境教育」による環境資格支援教育プログラムや国際環境教育を進めています。こうした活動に対し、平成21年度は「第8回日本環境経営大賞環境経営部門最優秀賞」他4件、平成22年度には「エコ大学ランキング」総合第1位に選ばれました。

キャリア教育については、テーマ「21世紀の人材育成：『生きる力』とキャリア教育」にて、小中高校の教員研修とユネスコクラブによる授業アシスタントを行っています。本学学生向けには文部科学省平成22年度大学生の就業力育成支援事業に「自他共に成長を目指す幅広い職業人の養成」が採択され、活動中です。世界遺産教育は「熊野古道の保全と継承」をテーマに授業で理論を学び、ユネスコクラブが中心になって実践活動を行っています。

教師及び教師を目指す学生向けの教育については、津市及びNPOの協力を得て、月に一度土曜の午後に希望する子ども達を集めて国内外の拠点とインターネットを通じて交流を行う「パンゲア活動」を行っています。また、平成21年度より「ユネスコスクール研修会/シンポジウム in 三重大学」を、大切な学びの機会として提供しています。

【ユネスコスクール支援内容】

三重大学自体がユネスコスクールであることから大学生向けの教育とともに様々な支援を展開しています。三重県内のユネスコスクール認定は三重大学が初めてでしたが、現在は鈴鹿市立小中学校5校を含めて6校になり、さらに増える見込みです。また県外にも支援を拡げていきます。以下は最近の実施例です。

教育関係者向け研修会

三重県市町教育委員会と小中学校教員、総合学科高校等の教員向けに、「学力向上と授業改善」に関わる研修会を実施しています。その目的は、ユネスコがめざしている「世界中の子どもたちの基礎教育の充実」です。毎日の授業の中で教員が抱えている課題に答えながら、改善後の目標に向けた具体的な方策やヒントを提案しています。

世界遺産研修会

平成22年10月9日に「熊野古道とユネスコスクール普及講座」を開催しました。あいにくの天候でプログラムの変更を余儀なくされましたが、県内教育関係者及び学生合わせて72名の参加があり、「熊野古道語り部友の会」の皆さんと有意義な意見交換会などを行うことができました。（上段の写真）

ユネスコスクール研修会/シンポジウム in 三重大学

ユネスコスクールとは何かを学ぶ研修会とユネスコスクールの活動を報告しあうシンポジウムを平成21年度より開催しています。中段の写真はポスター発表の様子です。

ユネスコスクールの授業支援

「確かな学力と豊かな人間性」の育成プログラムが学校現場で定着し、「生きる力」を備えた児童・生徒が地域活性化の担い手になることを目的に、教員研修と同時にユネスコクラブが小中学校の先生方の授業アシスタントとして関わっています。（下段の写真）





大阪府立大学

住 所	〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号	担当者情報	吉田 敦彦 教授(人間社会学部人間科学科心理教育コース) atsu@hs.osakafu-u.ac.jp
URL	http://www.osakafu-u.ac.jp/		伊井直比呂 准教授(人間社会学部人間科学科心理教育コース) naoii@hs.osakafu-u.ac.jp

領域横断型環境学、ホリスティック教育アプローチ、 ユネスコスクール地域ネットワーク形成

【ESD活動紹介】

1. 学部横断型副専攻「環境学」および大学院「国際環境活動プログラム」開設

人類は持続可能性をめぐるさまざまな問題に直面しており、それらへの対応が喫緊の課題となっています。持続可能な社会づくりを進めていくESDのためにも、いわゆる「環境人材」の育成の必要性が指摘されています。そのために、持続可能な循環型社会の形成へ向け、多様な環境問題を複合的・科学的な視点から正しく理解することが重要です。本学では、エコロジー・サイエンスや環境技術を開発する生命環境学部や工学部、持続可能な社会システムや暮らし方、価値観・態度の形成に関わる人間社会学部や経済学部が協力し、平成22年度より、学部・大学院の一貫教育として、全学部生を対象にした副専攻「**環境学**」と全大学院生（博士前期課程）を対象にした「**国際環境活動プログラム**」を開設しました。（環境省「環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業」平成21年度採択）

2. ESDを担う総合的指導力を有する中等学校教員養成

大阪府立大学は、大阪府立高校をはじめ、府下の中学校・高等学校の教員を輩出してきた歴史をもっています。その課程においては、ESDを推進するユネスコの21世紀ビジョンにおいても強調されている総合的・全人的（ホリスティック）アプローチを取り入れた教育と研究を重視しています。また、学校の教育に関わる多分野多職種（異なる教科担当教員やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなど）が協働する力（コラボレーション力）の育成に向けたプログラムを開発しており、包括的な視野を必要とするESD実践にふさわしい教員を養成しています。



【ユネスコスクール支援内容】

1. 国際的な連携によるユネスコスクール・プロジェクトの支援

大阪のユネスコスクールは、2001年から開始された文部科学省によるASPnet再活性化策に呼応し、同ネットワークへの加盟とUNESCO理念に基づくパイロット実践（研究）活動を全国に先駆けて行ってきました。また、国連「ESDの10年」の開始（2005年）以前から、ユネスコの理念に掲げられる平和の文化や、持続可能な社会を形成することにつながる多岐にわたる教育課題に、各学校が地域の課題とつなげて取り組んできました。そして、学校・地域の課題を世界に通じる課題として扱い、「アジア・北欧7カ国 ESD高校生国際会議（2008年）」などを開催しました。大阪府立大学は、各校がユネスコスクールに加盟し地域と世界との間での学びを深める活動に対して、早くからその意味を社会に広めるなどの支援を行い、同時に、大学とユネスコスクールの関係のあり方を探りながらASPnetの成果を社会に還元してきました。

2. ユネスコスクール地域ネットワーク形成の支援

上記の歴史と背景を踏まえて、2009年11月に府下のユネスコスクールに加盟する公的地域連携組織である「**大阪ユネスコスクール(ASPnet) ネットワーク**」が発足しました。これは大阪府教育委員会公認の組織で、ユネスコスクール加盟校だけでなく、参加を検討している学校や賛同校も加盟でき、現在24の初等・中等教育機関が参加しています。運営は、各校からスクールコーディネーターが出席し、情報交換や協同企画・協同実践のための話し合いがなされ、ユネスコスクール地域ネットワークの先進的モデルを形成しつつあります。大阪府立大学は、これが発足時から加盟し、各教育行政機関とも連携しながら、共に地域のユネスコスクールおよびユネスコスクール学校群との連携を促進しています。現在、同ネットワークの事務局は大阪府立大学に置かれています。

3. 学校種別を超えたネットワークを活用した学び合いの推進

ユネスコスクールとして認定されて活動する意義の中に、小学校、中学校、高校、大学といった学校種別を超えて、同じユネスコの理念を共有しているからこそ実現できる学び合いがあります。大阪府立大学は、2010年8月に異学年・異学校種の児童・生徒（学生）が共に学びあう「学びあい交流会2010」という企画を、日本/ユネスコ・パートナーシップ事業として大阪ユネスコスクールネットワークと共に実施し、さらに第2回目的の「学びあい交流会2011」の計画が進行中です。重要であることは、これらの企画をユネスコスクールの先生方で準備し、生徒の学びを各校で保持するだけでなく大阪のユネスコスクール学校群として共有しようとしていることです。参加した学校は、ユネスコスクールの存在価値を認識して、ユネスコスクールとしての質を相互に高めつつ、新たに加盟する学校が生まれてくる広がりにもつながっています。

奈良教育大学

住 所	〒630-8528 奈良県奈良市高畑町	担当者情報	副学長 加藤 久雄 E-MAIL katohs@nara-edu.ac.jp TEL.0742-27-9108
URL	http://www.nara-edu.ac.jp/		

世界遺産学習

【ESD活動紹介】

1. 世界遺産学習全国サミット2010inなら～奈良教育大学ユネスコスクール教育実践研究会を開催

平成22年度は、前年度の「世界遺産学習全国プレサミットinなら 奈良教育大学ユネスコ・スクール教育実践研究会」の開催に引き続き、11月28日に文部科学省、奈良教育大学、奈良市教育委員会、奈良国立博物館及び世界遺産学習連絡協議会が主催となって「世界遺産学習全国サミット2010 inなら～奈良教育大学ユネスコスクール教育実践研究会」を開催しました。この研究会は、世界遺産などの文化遺産を通して、地域に対する誇りを育てたり、環境教育、平和教育、国際理解教育、人権教育を展開したりするもので、持続可能な社会の形成者を育てるなど、ユネスコが推進している理念を学校現場で活かすことを目的としています。

当日は、世界遺産学習等を推進している全国の教育委員会の関係者をはじめ、約800名の参加者があり、会場は熱気にあふれ、成果のある研究会となりました。

午前には「持続発展教育と世界遺産学習」と題して、本学の田淵五十生教授がコーディネーターとなり、シンポジストに文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長の浅井孝司氏、ソウル大学教授・韓国国際理解教育学会会長の韓敬九氏、奈良市教育委員会学校教育課長の石原勉氏を招いて、世界遺産学習シンポジウムが行われました。

午後には、教員対象の分科会（11分科会に分かれて各テーマについて討議）と市民対象の世界遺産学習会が各会場で行われ、その後、奈良国立博物館学芸部長 西山厚氏による講演「こどもたちに伝えたい奈良」が行われました。

世界遺産学習会では、奈良文化財研究所副所長 井上和人氏による講演「平城京遷都の真実に迫る」や、奈良市立大安寺西小学校の児童による創作音楽雅楽、奈良市立月ヶ瀬小学校の児童による狂言が披露され、会場からはESD活動の成果に対して、感嘆の声があげられました。



挨拶する奈良教育大学・長友学長



大安寺西小学校教育による創作音楽雅楽



月ヶ瀬小学校児童による狂言

2. 学生の世界遺産教材作成のためのフィールドワークを実施

平成22年度は、6月30日と7月7日に、平城旧跡、興福寺、薬師寺、唐招提寺、春日大社、春日原生林、東大寺、元興寺、ならまちを学習の場として、世界遺産学習教材作成のためにフィールドワークを実施しました。本学の学生への世界遺産教育実践の深化を図ることを目的としています。フィールドワークの成果「仲間と学び合った 奈良の世界遺産」を刊行しました。

3. 公開講座「親子で探ろう奈良の世界遺産」を開催

世界遺産に指定されている「古都奈良の文化財」について理解を深めることを目的として、本学教員となら観光ボランティアガイドの会のみなさんによる説明のもと、小学生・中学生およびその保護者が東大寺、興福寺を探訪し、ESDについて世界遺産を通じて学びました。（平成22年10月23日）

【ユネスコスクール支援内容】

ユネスコスクール加盟（申請）校の活性化を目的とした取り組みを実施

今年度の主な取り組みは以下の2点です。

①奈良ESDキャンプ2010の開催

- 【日時】平成22年8月22日～23日
- 【場所】国立淡路青少年交流の家
- 【対象】ユネスコスクール加盟（申請）校の教員及び児童
- 【内容】下記5点の内容を中心として実施
- ・ESDのこれまでとこれから
- ・世界遺産学習
- ・世界の課題とわたしたち
- ・未来を担う私たちに必要な資質は何か
- ・奈良ASPネットワーク子ども会議



②地域と結んだ児童・生徒の活動づくりに関わる教員研修の開催

- 【日時】平成22年10月7日～8日
- 【場所】富山市立中央小学校、富山大学人間発達科学部附属中学校、富山県五箇山「合掌の里」、岐阜県白川郷
- 【対象】ユネスコスクール加盟（申請）校の教員
- 【内容】下記2点の内容を中心として実施
- ・ESD推進において先進的な役割を担っている学校を視察し、その実践に学び、参加教員が勤務する各学校園校における今後のESDの取り組みについて示唆を得る。
- ・白川郷・五箇山それぞれが開発と保全の問題を地域でどのように取り組んでいるかについて学び、奈良の世界遺産の保全と観光のあり方についての示唆を得る。



富山市立中央小学校の視察



五箇山の視察



鳴門教育大学

住 所 〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748
URL <http://www.naruto-u.ac.jp>
<http://www.naruto-u.ac.jp/~bann/unescoschool.htm>

担当者情報 近森 憲助
 (教員教育国際協力センター、088-687-6682、6043)
chika@naruto-u.ac.jp
 伴 恒信
 (人間形成コース、088-687-6242)
bann@naruto-u.ac.jp

四国遍路、環境教育、国際理解

【ESD活動紹介】

鳴門教育大学は、2010年度に初めてASPUnivNetに加盟したばかりではありますが、ESDおよびESD相当の活動には地域の教育委員会や学校と連携しながら積極的に取り組んできています。

1. 「遍路ウォーク」プログラム

四国の地域文化に深く根ざすと同時に現代の多くの人々の心を捉える四国遍路を、本学の学生と地元の小学生とが実際に歩くことで、遍路を支える地域の人々との交流をはかり伝統文化を理解するという目的をもっています。同プログラムはまた、本学大学院授業「四国遍路と地域文化」と連動し、学生にとっても地域文化の体験的理解と参加児童への指導実践とを兼ねたプログラムとなっています。

2. 「正法寺川環境教育」プログラム

地元を流れる吉野川支流の正法寺川を舞台に、地域ボランティア団体と小学校、さらに本学が協力して、小学校4年生の総合の時間を1年間使って同川の水質検査、野鳥観察、魚と水辺の生き物観察、川の流域環境の調査を実施するものです。2008年度には、こうした環境教育への取り組みが評価されて、「環境大臣賞」を受賞しました。

3. インターナショナルフェスタ

2010年度本学の教員教育国際協力センターが主催したインターナショナルフェスタでは、国際理解教育の実践者、国際協力機関・団体・教員養成機関関係者をはじめとして国際理解教育に関心を抱く人々が、それぞれの背景や興味・関心及び実践などを通して眺めている国際理解教育の姿を共有するとともに、立場や背景を越えて、今後の国際理解教育のあるべき姿や枠組みについて考えます。

【ユネスコスクール支援内容】

本学は、四国地域の各学校からのユネスコスクール加盟申請に対して、申請書の作成や英語への翻訳などの支援をするとともに、上述のようなESDおよびESD相当活動を地元教育委員会、ボランティア団体、各学校と緊密な連携を図りながら実施、支援してきています。ESD関連活動は他にも多くの萌芽とみられる活動が各地で展開されており、本学のユネスコスクール支援事業に組み入れてさらに支援を拡大していくことが期待されています。



遍路の山道の見晴台で休憩・談笑



遍路ウォークプログラム朝の出発、第11番札所藤井寺

岡山大学【大学院環境学研究科】

住 所 〒700-8530 岡山県岡山市津島中3-1-1
 TEL.086-251-8849
URL <http://esd.okayama-u.ac.jp/>

担当者情報 岡山大学ユネスコチェア 阿部宏史
 E-MAIL abe1@cc.okayama-u.ac.jp

【ESD活動紹介】

1. 岡山大学ユネスコチェアについて

岡山大学は、2006年度に「岡山大学ユネスコチェア:持続可能な開発のための研究と教育 (UNESCO Chair in Research and Education for Sustainable Development at Okayama University)」を申請し、2007年4月にユネスコから認可を受けました。岡山大学ユネスコチェアは、「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development, ESD)に関する事業の推進を目的としています。

岡山地域は、2005年6月に「ESDに関する地域拠点RCE (Regional Centres of Expertise on ESD)」として、世界最初の7カ所の1つに認定されました。これまで、行政、学校、NGO、市民団体などが連携してESD活動に取り組んできましたが、高等教育機関との連携は十分とは言えませんでした。そこで、高等教育機関としてのESD取り組みの強化、並びにRCE岡山の関係機関と連携した広範なESD活動の展開を目的とし、ユネスコチェアの認可申請に至りました。その後、岡山地域では、様々な組織が国際連携、国内連携、学校教育、社会教育の各分野においてESDに取り組む体制が形成されています。

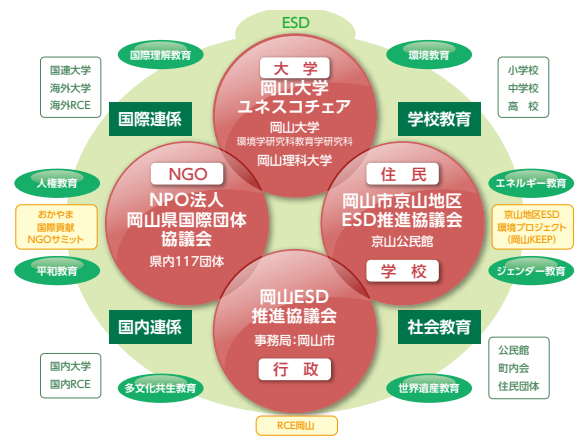


図1 RCE岡山の関係機関とESD取組

2. 岡山大学ユネスコチェアの運営体制

岡山大学ユネスコチェアは、岡山大学の全学組織として運営されており、大学院環境学研究科長がチェアホルダーを務めています。また、岡山市との間でESD推進のための協定を締結するとともに、RCE岡山の推進組織に岡山大学関係者が参画するなど、岡山地域におけるESD関係団体との緊密な連携関係を構築しています。

活動資金は、外部の競争的資金と学長裁量経費等の学内経費から得ており、2007年度～2009年度は、文部科学省・特別教育研究経費（連携融合事業）「地域発信型による国際環境専門家の育成プログラム-ユネスコチェアを活用したESDの国際拠点形成プログラム」として実施しています。また、文部科学省・組織的な大学院教育改革推進プログラムや財団法人ユネスコ・アジア文化センターによる交流基金等も活用しています。

3. 岡山大学のESD活動内容

(1) 地域と連携したESD活動

岡山大学ユネスコチェアは、高等教育機関としての立場から、ESDに対する専門的助言や国際連携への協力に力を入れています。岡山では、1994年から「おかやま国際貢献NGOサミット」を毎年開催しており、2003年からはESDを主要テーマとしています。このうち、2006年のESD国際会議、及び2007年のKominkanサミットは、岡山大学が主催して開催しました。

岡山地域におけるESDの特徴としては、公民館を拠点とする活動が挙げられ、公民館活動と連携して、地域の環境点検、エコツアー、ESDフェスティバル、ESDサミット（地域全体会議）、ワークショップ、勉強会など、社会教育と学校教育が連携・協働して、地域教育力の向上と地域社会の持続性を高める活動を行っています。

(2) 国内外の高等教育機関とのESD連携

岡山大学は、国内高等教育機関によるESDネットワーク組織であるHESDフォーラム、アジア・太平洋地域の大学が参加するESDネットワーク組織であるProSPERNetに参画し、国内外の高等教育機関との連携を進めています。

また、教養教育へのESD導入（ESD関連科目の拡充）のため、教養科目シラバスに「ESD関連科目」を明記するとともに、ESDの概要、ESD関連科目等を解説した新入生パンフレットを作成し、学部と大学院の新入生全員に配布しています。

大学院教育については、2008年度に文部科学省・組織的な大学院教育改革推進プログラムとして「アジア環境再生の人材養成プログラム—循環型社会形成学と持続発展教育（ESD）の融合—」が採択され、環境学研究科にESDを基盤とする人材養成コースを設置しました。

4. 小中高校の学校教育との連携

岡山大学は、岡山市との協力の下で「ESD推進手法検討専門部会」を設置し、岡山市内の小中学校を対象とするESDカリキュラム開発等を進めています。また、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）の創設メンバー校であり、教育学研究科、環境学研究科、岡山大学ユネスコチェア等が連携して、岡山県内のユネスコスクール加盟校やESD取り組み校の支援を行っています。

これまでに、日本/ユネスコパートナーシップ事業として、2009年12月25日に岡山市内の小中学校関係者を対象とする「岡山地区ESD研修会」、また2010年12月6日には「岡山地区ユネスコスクール関係校・ESD取組校研修会・交流会」を開催しました。さらに、教育学研究科では、教員養成にESDを導入するとともに、学校関係者を対象とする様々な研修会を開催しています。



Kominkanサミット2007



ESDフェスティバル(京山公民館)



九州大学【大学院言語文化研究院】

住 所 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744番地
TEL・FAX +81-(0)92-802-5733

URL <http://www.flc.kyushu-u.ac.jp>

担当者情報 言語文化研究院の複数の教員が担当しております。以下の共有メールアドレスにご連絡下されば、誰かが対応できるようになってます。
E-MAIL unesco-school@flc.kyushu-u.ac.jp

国際理解、国際協力、異文化間コミュニケーション

【九州大学大学院言語文化研究院の紹介】

九州大学言語文化研究院は、世界各国・各地域の文化を、言語を基軸として総合的かつ科学的に研究する研究者の集団です。国際化と情報化が急速に進行している現代社会で日本がこれまでに以上に指導的役割を果たしていくためには、あらゆる分野において、日本と世界とを繋ぐ架け橋となる優秀な人材が必要です。専門分野における知識・経験に加えて、各国・各地の言語を駆使する高い技能を持ち、その文化に関する深い認識を有することが不可欠です。言語文化研究院は、そのような人材の養成に力を入れています。

【ESD活動紹介】

- ◎ 国際理解教育に関連する事業の実施
- ◎ 国際協力に関連する事業の実施
- ◎ 異文化間コミュニケーションに関連する事業の実施

【ユネスコスクール支援内容】

1. ユネスコスクールへの加盟支援

九州・山口県地域の教育委員会と協力し、ユネスコスクールに加盟を希望する学校に対して、加盟申請書の書き方指導などへの協力を提供します。

2. ユネスコスクール活動支援

- ◎ ユネスコスクールの活動の質的向上のために日本ユネスコ協会連盟、アジア・太平洋ユネスコ文化センター（ACCU）、持続可能な開発のための教育の10年推進会議（ESD-J）などと共催して「ユネスコスクール研修会」を開催します。
- ◎ 大学に所属する教員、留学生などを派遣する「出前講座」の実施に協力します。
- ◎ 地域で活動するNGO/NPOなどと協力して、ユネスコスクールの活動に資する情報を提供します。

3. ユネスコスクールネットワーク形成支援

九州・山口に近いアジア、特に韓国や中国のユネスコスクールとの交流や提携を支援します。



日コ協連と共催したユネスコスクール研修会(福岡)



韓国ユネスコ国内委(韓国におけるパートナー)の李さんを囲んで

協力員の紹介

東京学芸大学大学院教育学研究科教育実践創成講座【教職大学院】
成田 喜一郎

住 所 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

URL <http://www.u-gakugei.ac.jp/>

担当者情報 E-MAIL knarita@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】

Holistic approach … 国際理解教育、環境・消費者教育、市民性教育、学校危機管理・危険回避教育、学校図書館活用教育、ESDカリキュラム開発・実践観察=評価方法開発

Knot working …… 教育ネットワーク構築・組織論

Leaning for All …… 国内の貧困層等の児童生徒学習支援NPO「LFA」への支援

【ユネスコスクール等支援実績】

直接、恒常的に個々のユネスコスクールを支援する活動は行ってはいませんが、教員養成大学・教職課程におけるESD講義・ワークショップを行い、現職教員並びに教職志望学生への研究指導・実践支援を行っています。また、首都圏を中心とする学校・地域においてESD実践研究・教育活動の創発・再構築・普及支援講義・ワークショップを行っています。

【主な活動実績2009-2010】

- 東京学芸大学教職大学院講義・ワークショップ(2009,2010)
- 中央大学社会科教育研究・指導法講義(2009,2010)
- ACCU「ESD教材活用ガイド:持続可能な未来への希望」(2009)
- ACCU「学校&みんなのESDプロジェクト」(2010)
- 東京都板橋区地域市民ESD研修会(2009.12)
- 自由学園観察記録=評価フィードバック(2009.12)
- 埼玉県所沢市立教育センターESD研究部会支援(2010.5～現在)
- 東京都中野区教育委員会ESD研修会(2010.8)
- LFA学生教師支援講義・ワークショップ(2010.8～現在)
- 東京都江東区立東雲小学校観察記録=評価フィードバック(2010.10)
- 宮城県蔵王自然の家環境教育リーダー研修基礎講座(2010.11)
- 知と心の学びの空間「学校図書館活用教育フォーラム」(2010.12)

【今後、深めていきたい課題】

- ESD観察=評価方法研究及び試行実践の拡大（実践的HOPE評価）
- 教員養成・現職研修・教師教育におけるESD実践アプローチ

ASPUnivNetの今後に向けて

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)は、2008年の年末にESDに取り組む8大学でスタートしました。日本語の略称が特に決まってはおりませんが、最近、ユネスコスクールのみなさまからは“ユニブネット”と親しみを込めて呼ばれるようになりました。

ASPUnivNetは、ユネスコスクールの自発的な活動を支援する大学など高等教育機関のネットワークです。主役であるユネスコスクールが、それぞれの地域の教育力に支えられて個性を発揮し、“子どもたちが未来の地球を支える人に育って欲しいという人々の願い”を叶えて欲しいと願っています。ASPUnivNetは、それらのユネスコスクールを、縁の下の力持ちとして支えて行きたいと思っています。

ユネスコスクールの活動の特徴は、パイロットスクールとしての先導的役割と国境を越えた優れたネットワークです。ASPUnivNetは、アジア太平洋地域の学校間のフラッグシップ・プロジェクトを提案しようと思います。その第一号が、「おこめ」です。このフラッグシップ・プロジェクトによって、子どもたちに国境を越えたグローバルな視点が育って欲しいと思います。

ASPUnivNet加盟大学は、現在12大学です。2011年の明けにはさらに何校か仲間が増える見込みです。ユネスコスクールにとっての利便性を考えると、できれば各県に加盟大学があることが望まれますので、これからも仲間に入って下さる大学を募りたいと思います。

国連の「持続可能な開発のための教育の10年」(DESD)は、2005年から2014年までです。この期間にESDが一定の軌道に乗ることを目指しますが、“持続可能性”は我々永遠のテーマです。したがって、私たちはさらにこの先を見据えながら、ユネスコスクールにとって頼れる存在であり、質の高い支援ができるよう絆を強くして、ユネスコスクールとともに歩んで行きたいと思っています。

(ASPUnivNet 事務局)